

意図共有スキル向上支援に向けた問いの構造化

大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 M1 森 夏実

研究目的 学術研究ミーティングを機会とした意図共有スキルの向上

研究背景

他者とのコミュニケーションの場で相手に何か伝える機会は数多く存在する

特に創造的議論を必要とする場面では**意図共有スキル**が重要である

意図共有がうまくいかないと...

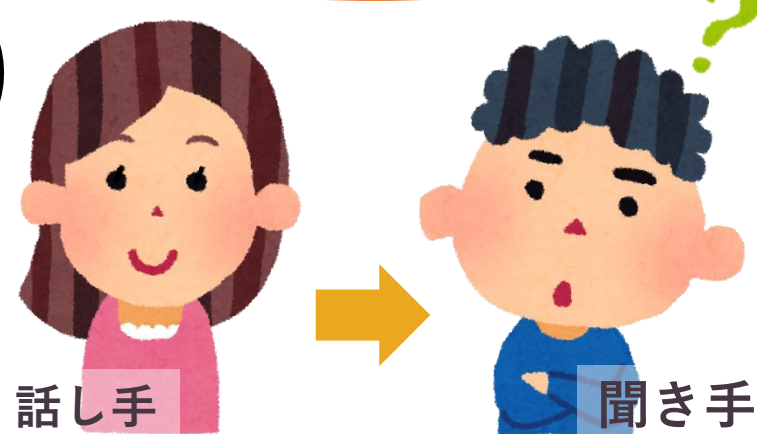
- ・議論が発散する
- ・聞き手から合意が得られない

発言意図

目的
何の目的でプランYを提案するのか
理由
なぜ他のプランではなくYを選んだのか

発言内容
プランYを提案します

創造的議論の場



学術研究ミーティングに着目

特徴

- ・創造的議論を行うことが望ましい
- ・研究プロセスは、遂行者しか知り得ない
- ・継続的かつ累積的な活動である

問題点

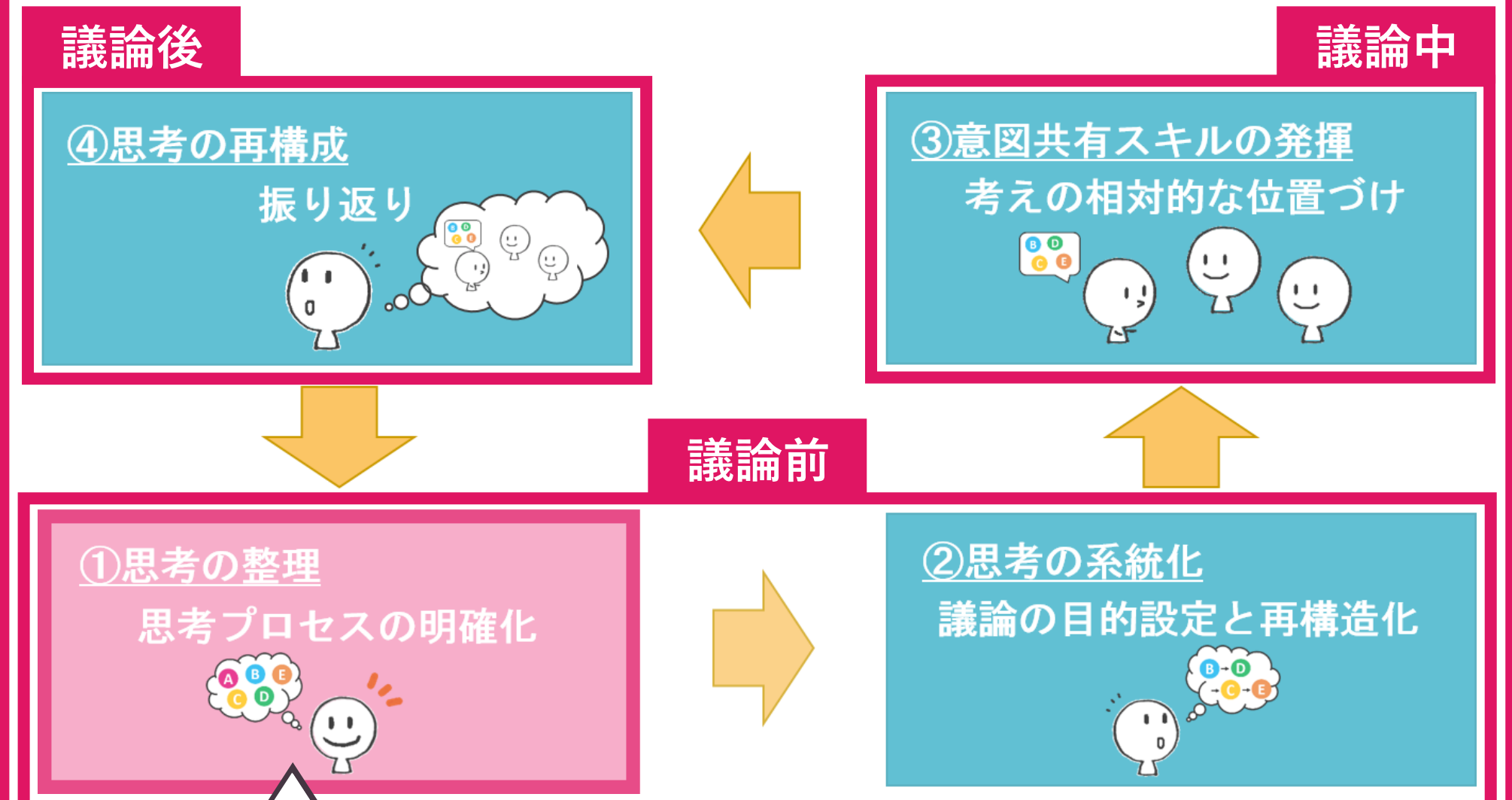
- ・事実や考えの結果だけが資料に反映される

→ 研究ミーティング前に議論目的や意図を明確にする支援が必要

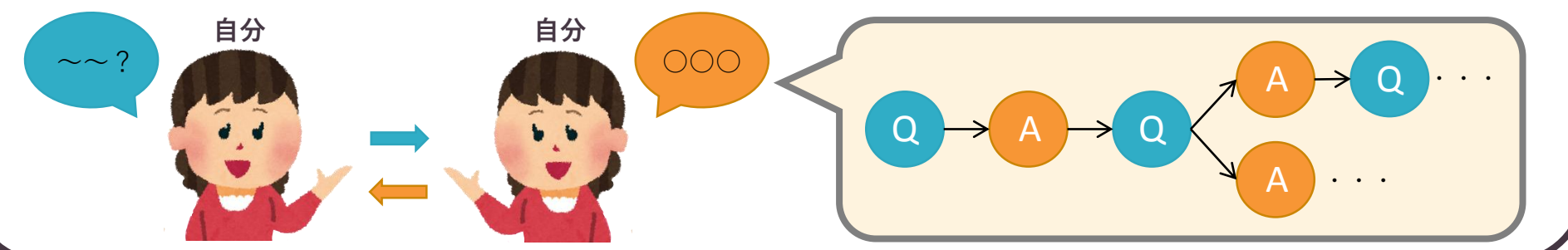


アプローチ

意図共有スキル向上サイクルの提案



潜在的な思考プロセスを明確にするために自己内対話を繰り返し行うことが求められる



自己内対話の困難性

客観的な視点が必要である

研究は曖昧で不鮮明な対象を扱う

提案手法

自己内対話を促進させるための「問い」を用意

目標

意図の表出化を促す問いを学習者に提示

システム要件

学習者自身の研究に対する理解状態を把握

学習者に合わせた問いを提示するために**問いを構造化**



問いの構造化方法

1. 概念と問いの対応付け
2. 抽象的から具体的な問いへの掘り下げ
3. 概念から概念への掘り下げ

問いの一例

